

バギーの シーティング

株式会社ピーエーエス 専務取締役
作業療法士 野村寿子 (のむら ひさこ)

昭和59年3月 国立療養所近畿中央病院付属リハビリテーション学院作業療法学科卒業。
同年4月、肢体不自由児母子通園施設吹田市立わかたけ園勤務（～平成12年）。平成10
年8月、環境との相互作用で起こる人の動きに着目したエコロジカルセラピー研究会を
発足、同研究会代表。同12年4月、有限会社ピーエーエス勤務。車椅子座位保持装置な
どの補装具の製作販売を通して障害を持つ方の適切な環境づくりの実践を行っている。
同17年12月、株式会社ピーエーエス 専務取締役
●著書「遊びを育てる」（協同医書出版社 1999年）、共著「包まれるヒト（環境）の存
在論」（岩波書店 2007年）、文庫「知覚と行為の始まりを作る 自ら発達する力を育む
シーティングセラピー」（現代思想 2007 Vol.35-6）



マイシーティングチェアにて

姿勢の意味を考える

作業療法士になって最初の16年間、私は肢体不自由児の通園施設で作業療法を行っていました。私のテーマは遊びの中で育つという子どもの自然な発達を作業療法士として援助することです。「遊びを育てる（協同医書出版社）」という本を書きました。座位保持装置を作る仕事を始めた頃、当時の写真を見直してみる



写真1
と、遊びの中で発達するそのポイントには、さりげなく活動に適した姿勢を提供してあげることがあったということがわかってきました（写真1）。つまり発達のポイントには、「遊び（活動）と姿勢」だということです。

シーティングの仕事をしている今も同じ事を考えています。「学校に行くようになる」と座って活動する時間が長くなるから側弯が強くなるのは仕方ない...」という言葉にショックを受け、「安定した心地よい姿勢」と「がんばって行う訓練」とは一致しないものだと言われて、変形した姿勢を保つだけの座位保持装置が多く作られている現場に憤りを感じました。そして私は、座って活動することが機能の改善にもつながる椅子「シーティングセラピー」を提案するようになりました。快適な椅子は、安定して体を支えることと運動の方向を明確にして日常の活動を援助するだけでなく、呼吸や代謝、表情、コミュニケーション、意欲にまで明らかな変化をもたらします。数百年の座位保持装置製作経験の中で、座位保持装置を作ることは、単に体を崩れないようにする道具作りにとどまらず、人の活動の基盤を作るものであり、その人が生きるために行う活動全てに大きく影響を与えるということがわかりました。例えばNちゃんの場合、最初に会った

時の彼女は全身突っ張った状態で表情も硬く常に上を向いて過ごしていました（写真2）。私の座位保持装置の採型は、肋骨が動きやすい位置にもたれる場所を作ることで、頭の位置を保ちやすい胸椎から頸椎のライン、腰からお尻にかけてフットする曲線、股関節の位置を適切に保ち痛みが無い位置にすることなど常に子どもの体と対話しながら行います。すると採型の途中からNちゃんの表情が柔らかくなり自分で少し頭の位置を戻す動きも見られるようになってきました。胸郭が大きく動き出しそれまで突っ張って大きく外転していた足は柔らかく弧を描くよう採型用のクッションになじんで落ち着き始めたのです（写真3）。椅子が出来る上がり、ご機嫌に授業に参加できるようになったNちゃんには、私の知らないところで姿勢の変化に伴うたくさんの出会いや経験があったのでしよう、3ヵ月後再会した時には、



写真2
「写真3」。椅子が出来上がり、ご機嫌に授業に参加できるようになったNちゃんには、私の知らないところで姿勢の変化に伴うたくさんの出会いや経験があったのでしよう、3ヵ月後再会した時には、



写真3
「写真4」。椅子が出来上がり、ご機嫌に授業に参加できるようになったNちゃんには、私の知らないところで姿勢の変化に伴うたくさんの出会いや経験があったのでしよう、3ヵ月後再会した時には、



写真4
「写真5」。椅子が出来上がり、ご機嫌に授業に参加できるようになったNちゃんには、私の知らないところで姿勢の変化に伴うたくさんの出会いや経験があったのでしよう、3ヵ月後再会した時には、

バギーのシーティング

バギーに乗ってお出かけできるようにになると、いろいろなものとお出会うチャンスが増え、子どもの世界は大きく広がります。光や風に気づき、道路のガタガタを体で感じ、街の様々な様子を見て音を聞き、声をかけてもらい、立ち止まって話をする。見る・聞く・触る・匂う・動きを感じる・姿勢を保持する・コミュニケーション等々。子どもが世界と快適につながることや援助するために、私たちはただそこにどまることを作るのではなく、崩れにくく、機能性、快適さを提供するバギーのシーティングについて考えなければなりません。ここでまず、体が崩れる原因について考えてみましょう。

人の体は、不安定なところの上に重いものが乗っている組合せでできています（図1）。背骨を見ると5個の積み重なった腰椎の上に12個の胸椎がありそこから大きく肋骨が張り出しています。この形を見るだけで前や横へ崩れいきそうな構造です。さらにその上に7個の細い頸椎、その上に頭蓋骨が重石のように乗っています。そして、その全体の重みを受け止める土台

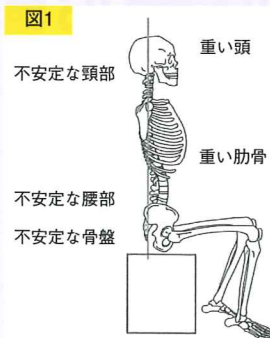


図1

となる仙骨と骨盤も不安定な形をしています。つまり、土台から崩れやすく、さらに上部の重いところが少しでも横にずれると背骨が曲がりやすい構造になっているのです。そのバランスを保つために背骨にはS状のカーブがありますが、座位においては、それがまた背もたれと体との間に崩れるきつかけとなる隙間を作ってしまうのです。この不安定な骨のバランスを筋肉の働きによって保っているわけですが、筋肉の働きがアンバランスだと、当然体のゆがみが生じやすくなります。



写真5
「写真6」。椅子が出来上がり、ご機嫌に授業に参加できるようになったNちゃんには、私の知らないところで姿勢の変化に伴うたくさんの出会いや経験があったのでしよう、3ヵ月後再会した時には、

① おしりはおさまっているか
土台となる仙骨（骨盤の間の骨）が後ろに傾いてしまうとその上の背骨を伸ばして座ることが困難になるので、背中を伸ばしやすいく角度にお尻を安定させる必要があります。

- ② 頭は安定しているか、周りのことを感じることができるか
- ③ 背中はより対称的にもたれることができるか
- ④ 頭部には、目・耳・鼻・口という外の世界を知るために重要な器官が揃っているため、頭をできるだけ軽く安定させなければなりません。ヘッドレストの形状だけでなく、背中を対称的に保つことで頭のコントロールを助ける必要があります。
- ⑤ 背中は丸く沈み過ぎていないか
呼吸に必要な肋骨の動きを確保するために、背中部分に重みがかかりすぎないことが重要です。
- ⑥ 股関節が左右に開き運動の自由度はあるか
日常の座位姿勢を見ると、片方の股関節に荷重がかかりすぎ、不快感のために全身の緊張を強めている場合がよくあります。股関節の可動性は、前方へ体を動かして活動するために非常に重要なので確認する必要があります。

快適な姿勢を作るために具体的な体の状態をチェックしていきまします（写真6）。

⑦ バギーのシーティングは、各パーツの調整を行います（写真7）。R君のバギーで調整したところは次のとおりです。

安定したシーティングとは、そこから動かない場所ではなく、動いてもそこに戻ってくる快適なリセットの場所、そこから動き出せる場所を意味します。「ここならだいたいようぶ」という安心できる場所を持つことで、子どもは積極的に環境と関わることで、自分でどんどん世界を広げていきます。子どもの元気な笑顔のために、ぜひお子さんのシーティングを見直してみてください。

- ① 背シートと座シートの張り調整
 - ② パット（内付け）の取り付け
 - ③ 座面クッションの製作
 - ④ ヘッドレストの作成
 - ⑤ リクライニング角度
 - ⑥ ティルト角度
 - ⑦ フットレストの高さ調整
 - ⑧ 足関節の角度に合わせたパットの作成
 - ⑨ ベルトの形状と位置
- さらに、バギーに座位保持装置を取り付けて使用すると、変形につながりやすい体のゆがみを防ぎ、積極的に体を起こして前方で活動することが容易になります。

心地よさの中に生まれる元気！
新しいリハビリテーションの形を作る！

日本初！ 作業療法士が採型する補装具業者です。
体の仕組みを丁寧に理解し形作る座位保持装置は、快適で機能的。自発的な動きをリハビリテーション効果につなげるシーティングセラピーの技術は世界からも注目されています。

車いす・バギー・起立台・歩行器等はバリエーション豊富で、個々のニーズに合ったご提案が可能です。専任の木工・縫製スタッフを配置した製作体制で、納期短縮を実現!!
木製ティルト・リクライニングフレーム・プロンボードやスーパインボード等、オリジナル製品も多数取り揃えています!